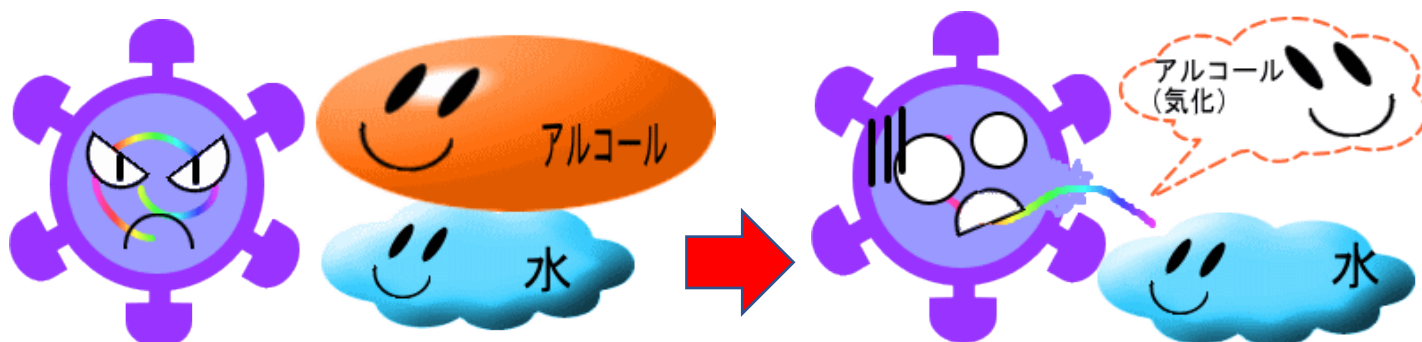


消毒液の取り扱いに注意しよう！ その1 アルコール編

コロナ禍によって皆さん色々気を使われていると思います。街中に消毒液が出回っておりますが、消毒液はウイルスを殺すだけでなく、使い方によっては人間まで殺すことができるので、注意が必要です。というわけで、消毒液についてのお話です。その1は、アルコール編。

アルコールがウイルスを殺菌するまで



アルコールがどのようにウイルスに作用して殺菌するのは、実は未だ解明されていません。アルコール単独では殺菌効果が無く、水と混ぜて、アルコール濃度が70%程度になると最大の殺菌効果が得られます。アルコール水に触れたウイルスは、表面を破壊されて中の遺伝情報（RNA）が露出してしまふことで無力化されます。殺菌後、アルコールはすぐに気化してわずかに水が残ります。

アルコール消毒液を取り扱ううえでの注意点

まず、手軽に手に入る**燃料用やメタノールが含まれているものは絶対に使用してはいけません。**飲んだり、目に入ったりすると視神経に作用し、失明します。30g以上の摂取で致死量となる場合があります。消毒用にはエタノールが最も無難で、エタノールほど一般的ではありませんがイソプロパノール、プロパノール単独または含有でも可能です。

次に、火気。学校で使うアルコールランプでお分かりのように、燃料として使われるアルコールは燃えやすい性質があり、まず火気がある場所では注意が必要です。気化して空気中の濃度が3%を越えると引火することがありますので、大量使用は控えましょう。また燃えている場合でも、炎の色が薄く気づきにくいという特徴もあり、万が一火災となった場合は水ではなく窒息消火が求められるため、消化器を使う必要があります。

また高温で自然発火することがあります。これからの時期、**車の中にアルコールスプレーを放置した場合、爆発して車ごと燃やしてしまう危険性**がありますので、車の中に置き去りにしないよう、注意してください。